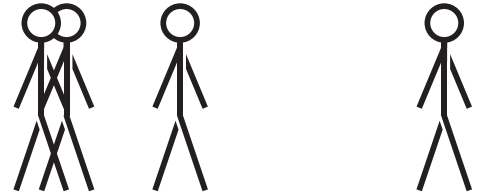


ポ ッ プ ア ッ プ
ア ル ス エ レ ク ト ロ ニ カ

POST CITY



@ Shibuya

「渋谷スクランブル交差点が
広場になったら？」

2016年3月19日(土)

[第一部] 09:30-13:00 / 渋谷 Q-Front Wired TOKYO 1999

[第二部] 15:00-21:00 / Fab Cafe Tokyo

主催 株式会社 博報堂

企画運営 FUTURE CATALYSTS (Hakuhodo × Ars Electronica)

協力: オーストリア大使館、オーストリア文化フォーラム

公式サイト: <http://future-catalysts.com>

Facebookページ: <https://www.facebook.com/Future.Catalysts.Hakuhodo.ArsElectronica/?ref=hl>

問合せアドレス: info@future-catalysts.com

オーストリア・リンツ市を本拠地とするメディア・アートの文化機関「アルスエレクトロニカ」と博報堂による共同プロジェクト「FUTURE CATALYSTS」は、産業、行政、地域社会の「未来」をつくる「触媒」となり、実践してゆくことを目指し、2014年に活動を開始しました。

これまで2014年9月オーストリア・リンツ市でアルスエレクトロニカ・フェスティバルのメインプログラムの一つとして、『Future Innovators Summit』、2015年3月には虎ノ門で『Future Catalysts PLATZ Vol.1 'CREATIVE QUESTIONS to design your CITY』を開催。同年9月、リンツ市でのアルスエレクトロニカ・カフェスティバル “POST CITY” で開催した『Future Innovators Summit』では、国籍を超え、様々なアーティスト、技術者、メンターの方々と、新たな「まち」(=「POST CITY」)の可能性について話し合いました。

今回『ポップアップ アルスエレクトロニカ POST CITY @ Shibuya』は、渋谷を舞台に、“新たな「まち」の姿とは?” “新たな社会イノベーションの可能性とは?” など、様々な「問い」で触発しあうことを通し「これからのまち」をつくるアイデアを生み出し、行動を起こすキッカケを見つけることが狙いです。(全二部)

第一部は、アルスエレクトロニカの総合芸術監督ゲルフリート・ストッカー氏から見た、渋谷を通して見える「まち」の可能性について基調講演に始まり、「まち」の最前線で活躍する各界からのゲストをお招きしてパネルディスカッションを行い、これからの「まち」についての可能性やアイデアを生み出していきます。

第二部は、アーティストやイノベーターが、渋谷という「まち」に介入するための仕組みやツール、アイデア「Shibuya Kit」を展示・販売する「POST CITY Kit Bazar」を開催。FUTURE CATALYSTSが、これまでの活動を通して生み出した「まち」への関わり方を指し示す

「9 Concepts for POST CITY Kit」のご紹介や、「Shibuya Kit」から集まったアイデアを触発するセッションなども行います。

PROGRAM_1 POST CITY Talk (@Q-Front Wired TOKYO 1999)

会場住所: Wired TOKYO 1999 住所: 東京都渋谷区宇田川町21-6 QFRONT7F「SHELF67」内

9:30-10:00 【POST CITY Introduction】

Ars Electronica Festival 2015 “POST CITY”レポート。
FUTURE CATALYSTSのメンバーによるキュレーションの元、あたらしい「まち」の事例をご紹介します。

10:00-11:00 【Key Note Speech「もし、渋谷のスクランブル交差点が「広場」になったら？」】

世界のイノベーションハブ、Ars Electronicaの総合芸術監督ストッカー氏を招いてのキーノートスピーチ。
ストッカー氏が見た渋谷という「まち」の可能性とは？

11:15-13:15 【Panel Discussion「『まち』に声は届くか？」】

私たちが「まち」の育成に参加することは可能なのか。何から始めればいいのか。
これからの「まち」の姿をいち早く模索してきたトップランナーたちのクロストーク。
社会イノベーション実践者のリアルな声をお届けします。

パネリスト: Ars Electronica/ Gerfried Stocker、渋谷区副区長/澤田伸、Dommune/宇川直宏、
Ars Electronica/ Martin Honzik、Re:Public/内田友紀、Heart Catch/西村真里子
モデレーター: 博報堂(FUTURE CATALYSTS) 鷺尾和彦

定員: 100名(予定)

参加費: 1000円(フリードリンク付。事前申し込みが必要です)

PROGRAM_2 FUTURE CATALYSTS Platz (@FabCafe Tokyo)

会場住所: FabCafe TOKYO 住所: 東京都渋谷区道玄坂1丁目22-7 道玄坂ピア1F

15:00-19:30 【“POST CITY Kit Bazar” 「SHIBUYA Kit」】

「まち」をもっと良くするためのモノやコト。好きになる仕掛け、体験やツールなど、
わたしたちが「まち」に介入するための道具、それが「POST CITY Kit」です。
渋谷をテーマにアーティストやイノベーターたちがつくった「POST CITY Kit」を展示・販売します。
また、「まち」への関わり方を指し示す9コンセプト*を展示します。

*9 Concepts for POST CITY Kit

http://future-catalysts.com/assets/pdf/9concepts_Jp_edited_0926.pdf

参加アーティスト: プラブラックス/久納鏡子、惑星ハルボリズム/古屋遥、incubion/高橋祥子、
BCL/福原志保、中山晃子、辻琢磨、ニコニコ学会β実行委員長/江渡浩一郎、博報堂プロダクツ/ユン・ジュンソク、
藤原惇、Salagadoola/宮崎理沙 + 木村元紀、TEAM FUTURE CATALYSTS(田中れな、服部公太郎、小笠原健)

16:00-(30分×4セッション) 【“SHIBUYA Kit” open discussion】

アーティストやイノベーターたちが、「Shibuya Kit」をもとに、
「まち」にどう介入していくか? アイディアを触発しあうディスカッションを開催します。
モデレーター: Ars Electronica 小川秀明、博報堂 谷口晋平、服部公太郎、染谷恭子

19:30-21:00 【POST CITY @Shibuya Feed Forward Party!】

1日のプログラム全てのトーク&ディスカッションから、キーワードや発見を抽出しラップアップ。
キースピーカーたちが「これからのまち」の手がかりを話します。
入場無料:(ドリンクチケット制。1枚500円)

参考資料

<FUTURE CATALYSTSとは>

アルスエレクトロニカと博報堂による共同プロジェクト。アルスエレクトロニカは1979年以来、アート×テクノロジー×社会をテーマに未来社会を描き出す先端的な創造性をつなぐ拠点として、多様な創造性を横断することで生まれる「未来」を具体的なカタチとして社会に提案してきています。博報堂は1981年に「生活者発想」を具現化するため、博報堂生活総合研究所を設立し、以来「生活者」という社会の中の本質を観察しながら、「生活者発想」で産業と社会をつないできました。私たち「FUTURE CATALYSTS」は従来の枠組みを越え、互いの経験、専門性、創造性を活かし合い、触発しあうことで未来をつくる「創造的な問いかけ(Creative Question)を生み出し、日本の産業、行政、地域社会の『未来』をつくる「触媒」となり、実践していくことを目指しています。

FUTURE CATALYSTS : <http://future-catalysts.com>

<Ars Electronica(アルスエレクトロニカ)とは>

オーストリア・リンツに拠点を置く、メディアアートの世界最高峰の文化機関。毎年9月にアート・テクノロジー・社会をテーマに行われる「アルスエレクトロニカ・フェスティバル」の他、未来の美術館・学校としての「アルスエレクトロニカ・センター」、メディアアートの最先端コンペティションである「プリ・アルスエレクトロニカ」、R&D機関である「フューチャーラボ」の4部門があり、1979年の設立以降、未来のかたちを探求し発信し続けています。クリエイティブ・シティとして知られるリンツ市のドライビング・フォースとして世界的な先駆モデルと位置付けられています。リンツ市が2009年にEU「欧州文化首都(Cultural Capital)」に、2014年にはユネスコ「創造都市(the Creative Cities -City of Media Arts)」に選ばれたことにもアルスエレクトロニカの存在は大きく寄与しています。

Ars Electronica : <http://www.aec.at/>

<アルスエレクトロニカ・フェスティバルとは>

1979年に最初のフェスティバルが開催されて以来、アルスエレクトロニカは「アート、テクノロジー、社会」をテーマに活動領域を拡げています。その中で最も歴史の長いフェスティバルは「HYBRID(2005)」「A New Cultural Economy(2008)」「origin(2011)」などのフェスティバルテーマに、世界的ネットワークから最先端の作品や事例、スピーカーが集まり、毎年注目を集めています。会場がユニークであるのも特徴的で、ある年はショッピングモールで開催され、既存の建物の新しい使い方の提案になっていたり、使われなくなった巨大なタバコ工場をクリエイティブに活用するなど、まちの新しい活用の実験機会にもなっています。2015年のテーマは「POST CITY~21世紀のわたしたちの住処~」。使われなくなった巨大な郵便配送センターに植物、古紙の束などを使ってまちの区画に見立て、その中に展示作品やワークショップスペースを配置したポップアップシティを作って会場としました。人口19万人のリンツ市に、フェスティバル期間中は世界各国から高関心層が集まり、2015年は5日間で9万5000人と、過去最高の入場者数を記録しました。

<アートシンキング Art Thinking について>

「アートシンキング」とは企業の中で製品やサービスを創造していくためのデザインプロセスとしての「デザインシンキング」に対して、本質的にわたしたちの暮らしは未来どうあるべきなのか？根源的で創造的な「問い」を考えること。アートを飾りやエンターテイメントとしてではなく、未来を切り開くために問いかける力として捉え、その哲学的な視点を持つことから、ものづくりや社会システムを創造して行こうという考え方です。イノベーションスピードが益々加速する現代、これまでの課題解決型ではなく、アートシンキングで未来を創造することに企業も注目しはじめています。